

平成29年度「救急の日」シンポジウム

身近に使えるAEDの設置促進

平成29年9月8日

大田区健康医療政策課 白川 真弓

本日お話しする内容

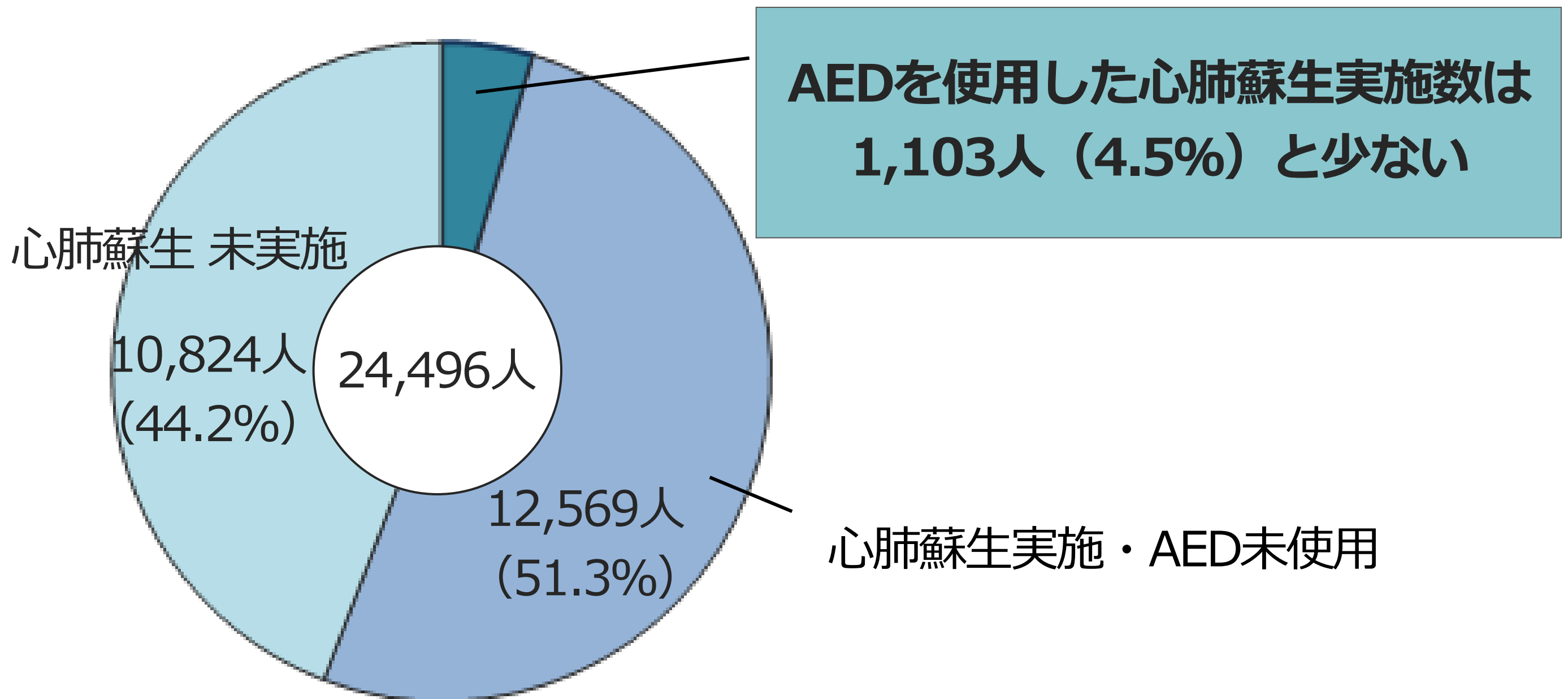
- 一般市民によるAEDを使用した救命処置の状況
- 大田区の取り組み
- 課題と今後の展開



一般市民によるAEDを使用した救命処置

(心原性心肺機能停止傷病者を目撃した市民による心肺蘇生等実施)

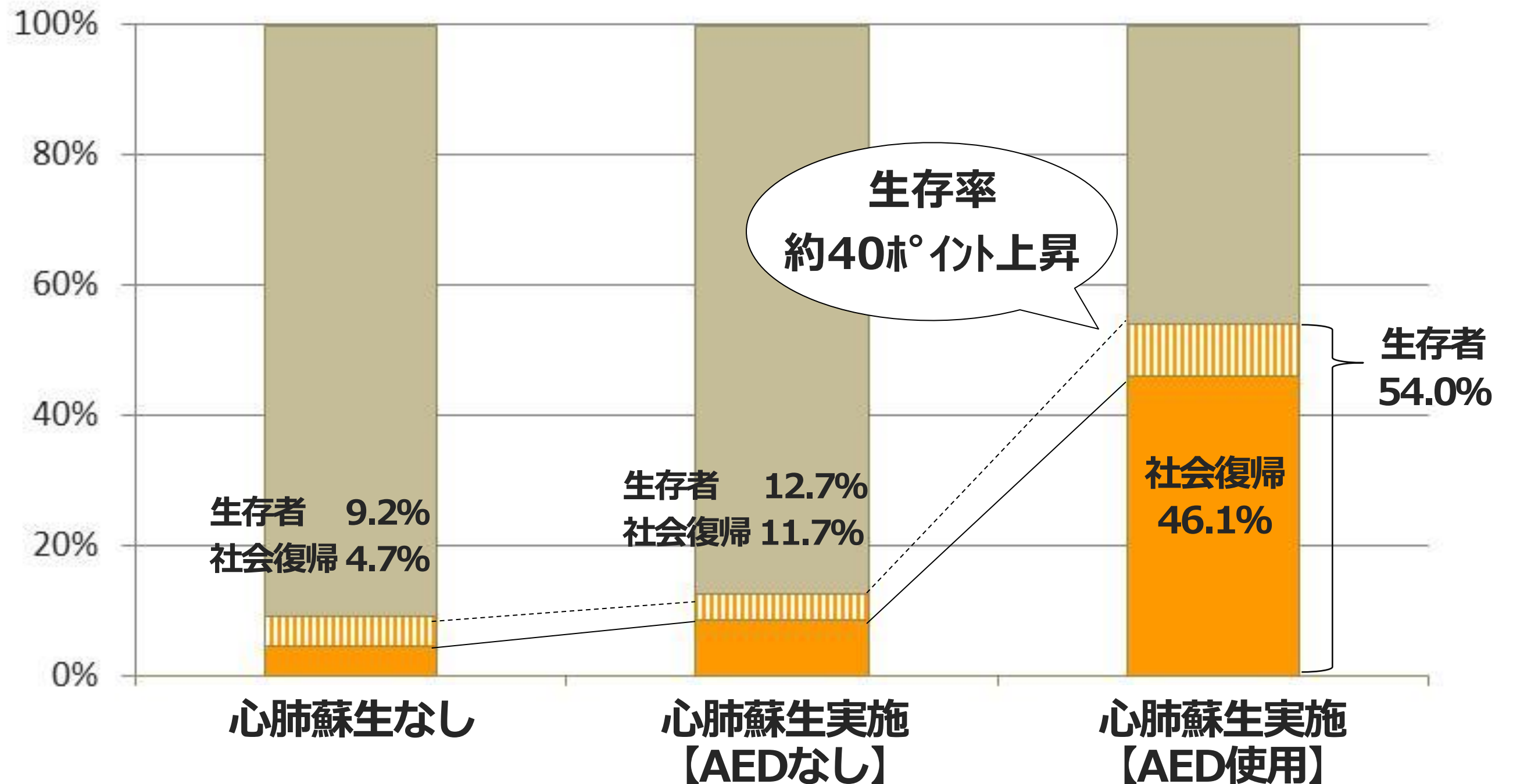
■ 救命処置の状況 (全国)



* 「平成28年版 救急・救助の現況」 (総務省消防庁) より作成

■ 1か月後の救命状況（全国）

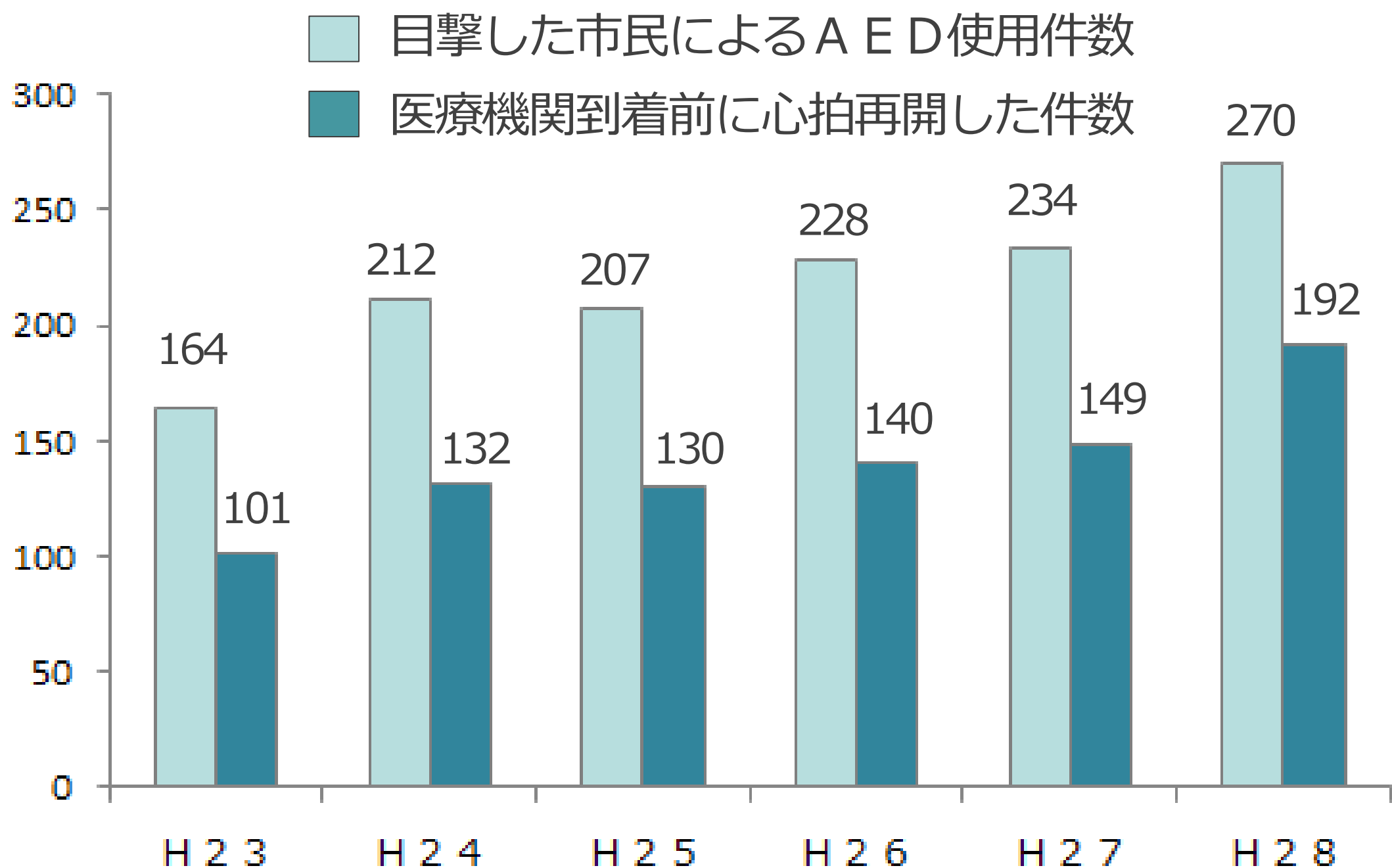
生存率54.0%・社会復帰率46.1%と AEDの効果大



* 「平成28年版 救急・救助の現況」（総務省消防庁）より作成

■ A E D使用件数の推移 (東京消防庁管内)

心停止を目撃した市民によるA E D使用件数は年々増加



*東京消防庁ホームページ資料より作成

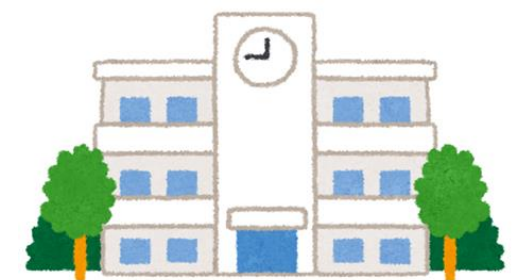
取組① 区施設への設置

(平成17年度～)

大田区AED配置基準に基づき
不特定多数が利用する施設や
心停止の発生リスクが高い施設に設置

効果的に配置

庁舎、文化センター、体育施設、公園、小中学校
高齢者や障害者の利用施設 など 320台



取組② 24時間AED設置補助

(平成28年4月開始)

★
夜間も安心
★

24時間誰でも使える状態で

民間団体等が設置するAEDの購入費用を補助

- * 補助金額：初期費用の2/3（466,000円上限）
- * 補助要件：救命講習の修了者がいる 等
- * H28実績：19か所

取組③ AEDレンタル費用助成

(平成25年10月開始)

区民を対象とするイベント等で用意する
AEDのレンタル費用を助成

* レンタル費用総額の9割 (14,000円上限)

* H28実績 : 2件



取組④ 区民への普及啓発等

■ 普及啓発



- ホームページ等により、AEDの効果や使用方法、設置場所等を周知
- 区イベントで体験コーナーを設置

■ 講習会

- 消防庁や日赤等による講習会を紹介



現在の課題

① 24時間利用できるAEDが少ない。

(区施設は閉庁時に使えない)

② 空白地帯がある。

③ AEDの設置場所や使い方の周知が十分ではない。



大田区におけるAEDの配置状況



■ 24時間利用可能なAED

24時間使えるAEDは少ない



● 半径300m
(5分以内使用の目安)

* 区施設・警察・消防・区補助金設置分

今後の展開(予定)

目指す姿

24時間使える・設置場所がすぐわかる

- 区施設（一部）のAEDを屋外へ設置
- 一般利用可能な民間AEDも区HPへ掲載
- 補助の活用促進等による空白地帯の解消
- HPの充実、地域への普及啓発 等

より安心して暮らせるまちへ

これからも身近に利用できるAED
の設置促進に取り組んでいきます！



ご清聴ありがとうございました

